



【第3回】私設こすもす公園  
希望の壁画  
(岩手県釜石市)



子どもたちの辛い記憶を塗り替える  
希望の壁画

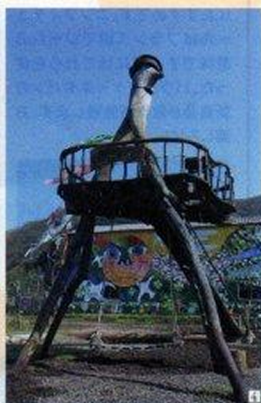
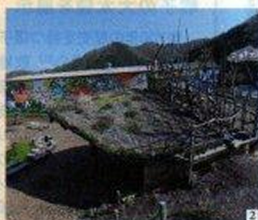
「雨に濡れた工場の壁を見て、津波みたい……と言った女の子の一言が、壁画を描ききっかけでした。そう話すのは、釜石市甲子町でレストラン「創作農家こすもす」を営む藤井了さん、サエ子さん夫妻。

藤井さん夫妻は震災後、仮設住宅建設で遊び場をなくした子どもたちのために、レストラン前の敷地を「こすもす公園」として整備し開放していた。隣接する鉄工所の大壁面を見て、避難していた子どもから発せられたのが、この言葉だった。「子どもたちに刻み込まれた津波の恐ろしい記憶を、なんとか払拭できないだろうか」。そう考えた藤井さんは、工場の壁に絵を描くことを思い立つ。知り合いだった

国連職員の佐藤摩利子さんを介して、タイ在住の画家・阿部恭子さんが名乗りを上げてくれた。多くの人の協力のもと、阿部さんは日本とタイを行き来しながら約1年をかけて壁画を完成させた。

壁画のタイトルは「再生 太陽の国」。優しく、そして力強く微笑む太陽とコスモスの花、日差しを反射してきらめく大木の葉、のびのびと舞う鳥たち。カラフルな色で彩られた壁画は、見る人の心を自然と明るくしてくれる。

了さんは話す。「この壁画が子どもたちの辛い記憶を少しでも塗り替え、未来への希望になってくれれば。子どもが元気に明るく遊び回る声が、地域にも活気を与えてくれると思うんです」。彼らの明るい未来と地域の復興を願う世界中の思いが、その太陽の目差しには込められている。



巡礼地と千年物語を募集中！

巡礼地とその場所にまつわる千年先まで語り継ぎたい物語を募集しています。

一般社団法人東北お遍路プロジェクト

<http://cocomichi.jp/>

5月には、壁画の前に顔のぼりが映る公園の泉の標は観望台になって、自由に上ることが出来る  
藤井了さん、サエ子さん  
公園内には大人気の遊具、遊具「ビノオスベリ台」、近所で切り出したケヤキが使われている

